205 R I 薬品自動発注の試み

Trial of Automatic Send an Order for the Radiopharmaceutical

長野市民病院 ○岡部信秀 宇野康隆 鈴木 隆 横田憲一
 (N, Okabe) (Y, Uno) (T, Suzuki) (K, Yokota)
 藤沢康彰 小林正人 藤田登夫 若槻貴志
 (Y, Fujisawa) (M, Kobayashi) (N, Fujita) (T, Wakatsuki)
 蔭田博人 染野竜也 田中文代 小林昌樹
 (H, makita) (T, Someno) (F, Tanaka) (M, Kobayashi)

(目的)

第52回総会においてR I 検査予約・放射性医薬品管理業務の自動化、省力化について報告した。

今回われわれは、さらにシステムを向上させ業務の効率化を図るために、R I 薬品の自動発注を試み、基礎的事項を検討したので報告する。

(必須事項)

R I 薬品自動発注を行うにあたり、必須事項として、病院情報の秘密を保持し、R I 薬品の発注の有無の確認ができなければならないと考えました。

(概要)

- 1、R I 薬品自動発注起動端末から、定期時刻、現在は15時45分にRADONサーバへR I 薬品発注管理データを検索しにいきます。
- 2、R I 薬品発注管理データは、テキストファイルとして、R I 薬品発注端末に保存されます。
- 3、R I 薬品メーカーが、ダイヤルアップ機能によって病院側のR I 薬品発注端末にアクセスします。(現在16時前後にアクセスします。)

ここでメーカー側からは、IDとパスワードを

入力してもらうようになっており、

セキュリティーに関しては、R I 薬品発注管理データしか参照できないよう限定しています。

- 4、メーカー側がR I 薬品発注管理データを参照します。
- 5、受付者氏名を入力してもらいます。
- 6、R I 薬品発注管理表をメーカー側端末に保存し、病院側にプリント出力し、保存します。
- 7、プリント出力されたR I 薬品発注管理表を確認します。

ここで、必須事項で述べたように

発注薬品に間違いがないか確認することができます。

(結果)

放射線情報システム(R I S)で、以前より使用していたR I 薬品発注管理データをもとに、病院情報の秘密を保持し、パソコンとWindows NTを使用することで、R I 薬品自動発注を安価に確実にこなえた。

(考察)

- 1、他病院の情報システムにおいても、ファイル形式等を同一にすることにより、接続が可能な発展性を有していると考ええる。
- 2、検定日が祝日、祭日になってしまう場合、現在は直接手で入力することで変更していますが、検定日の変更カレンダーを取り入れることにより、さらに使いやすくなると考えます。
- 3、公衆回線と病院端末の接続について、今後慎重に検討していく必要があると考えます。